

5 結果の概要・考察等

○問1 学校給食が「おいしい」「どちらかといえばおいしい」と回答した割合は、前年度同様9割以上(図1)

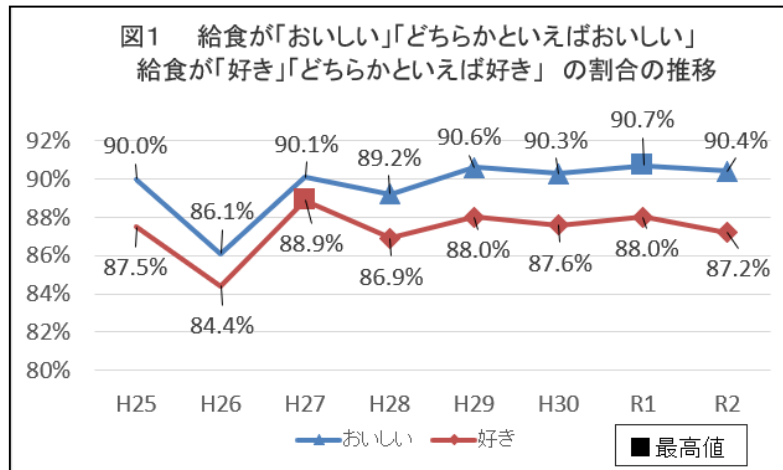
90.3% (H30) →90.7% (R1) →90.4% (R2)

- ・小学校では91.9% (前年度比0.2ポイント減)、中学校で83.8% (同1.1ポイント減)、特別支援学校では94.5% (同0.5ポイント減)の児童生徒が、学校給食を「おいしい」「どちらかといえばおいしい」と回答。すべての校種で若干減少した。小学校と中学校では、8.1ポイントの差があった。
- ・学校給食を「おいしい」と回答した児童生徒の割合は前年度に比べ、小学校で1.8ポイント増加、特に低学年で2.6ポイント増加した。中学校では4.3ポイント減少した。

○問2 学校給食が「好き」「どちらかといえば好き」は、前年度よりわずかに減少したものの8割以上(図1)

87.6% (H30) →88.0% (R1) →87.2% (R2)

- ・小学校では88.8% (前年度比0.3ポイント減)、中学校で80.7% (同2.4ポイント減)、特別支援学校では92.0% (同0.2ポイント減)の児童生徒が、学校給食を「好き」「どちらかといえば好き」と回答した。
- ・学校給食を「好き」と回答した児童生徒の割合は前年度に比べ、小学校で0.4ポイント増加(低学年1.4ポイント増、高学年0.6ポイント減)した。中学校では6.2ポイント減少した。



○問3 学校給食が好きな理由に「おいしいから」と回答した割合は、前年度同様7割程度

「おいしいから」 69.3% (H30) →69.2% (R1) →69.3% (R2)

「みんなと一緒に食べることができるから」

62.3% (H30) →64.3% (R1) →57.4% (R2)

「栄養のバランスを考えた食事を食べることができるから」

54.5% (H30) →53.7% (R1) →54.5% (R2)

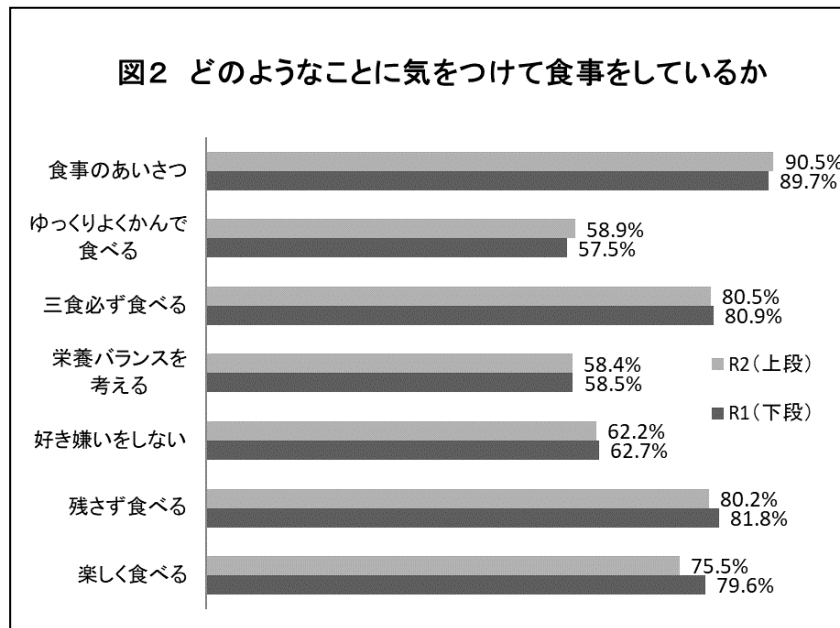
- ・「みんなと一緒に食べることができるから」と回答した児童生徒の割合は前年度に比べ、小学校で4.4ポイント減少した。中学校では18ポイントと大きく減少した。
- ・「栄養のバランスを考えた食事を食べることができるから」と回答した児童生徒の割合は前年度に比べ、小学校で1.3ポイント増加、中学校では1.6ポイント減少した。

(考察) 今年度は新型コロナウイルス感染症対策により、学校給食における生活様式が大きく変化したため、単純に前年度と比較することは難しいが、問1・2については全体で大きな変化はみられなかった。県産ブランド食材など地場産食材を使用した学校給食の提供や、動画配信による食育、ホームページを活用した給食献立の発信など、各学校の様々な工夫により取り組んだ成果とも考えられる。問3では「みんなと一緒に食べることができるから」の割合が減少した。スクール形式による会食形態が原因の一つとも考えられる。今後はこのコロナ禍を踏まえ学校給食や食育の方向性を検討し、食育の「生きた教材」である学校給食の充実を図る必要がある。

○問4 食事で気をつけていることに「食事のあいさつ」「三食必ず食べる」「残さず食べる」の割合が、前年度同様8～9割。「楽しく食べる」の割合が、前年度と比べ減少(図2)

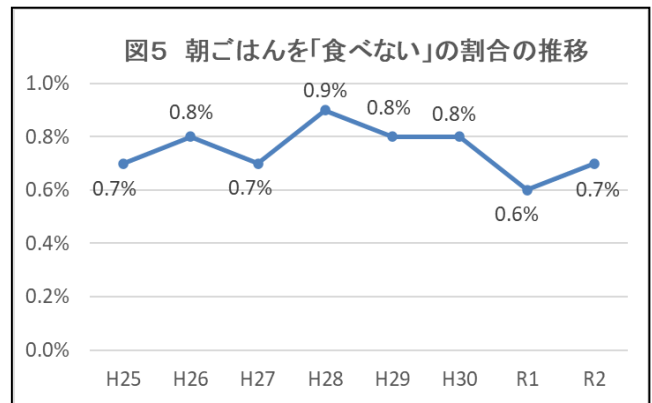
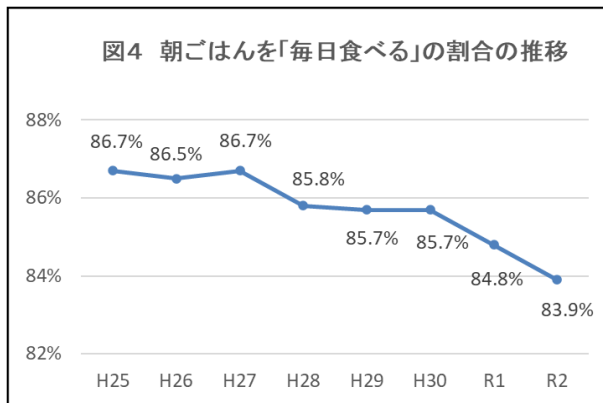
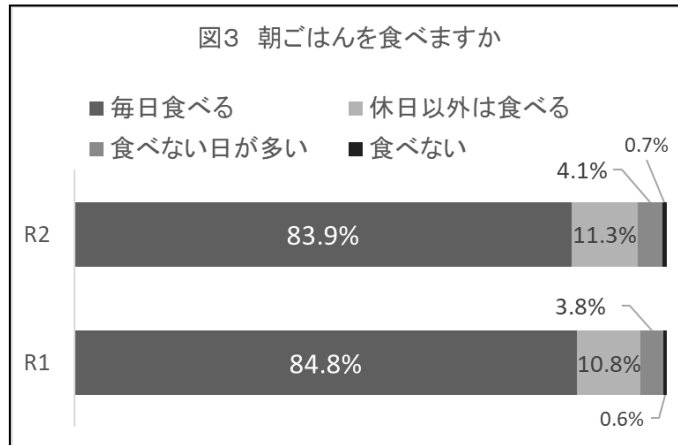
- 「あいさつをするようにしている」 90.5% (R2) : 90.1% (小)、92.6% (中)、90.0% (特)
 「三食必ず食べるようにしている」 80.5% (R2) : 81.0% (小)、78.1% (中)、90.3% (特)
 「残さず食べるようにしている」 80.2% (R2) : 78.4% (小)、87.4% (中)、76.9% (特)
 「楽しく食べるようにしている」 75.5% (R2) : 73.3% (小)、83.6% (中)、91.8% (特)
- ・「楽しく食べるようにしている」と回答した児童生徒の割合は前年度に比べ、小学校で5.3ポイント減少した(中学校0.1ポイント増)。
 - ・「ゆっくりとよくかんで食べるようにしている」と回答した児童生徒の割合は前年度に比べ、中学校で5.7ポイント増加した(小学校0.2ポイント増)。

(考察) 楽しく食べることを意識する児童の減少や、ゆっくりよくかんで食べることを意識する生徒の増加については、背景の一つに、給食の時間会話を控え前を向いて食べる形態で会食することが考えられる。学校給食は、楽しく食事をするにより、よりよい人間関係の形成を図る場である。コロナ禍においては共食により学校給食の目標を果たすことが困難ではあるが、このことをチャンスと捉え、ゆっくりよくかんで食べる指導や味覚に関する指導を行うなど、今できる食育を通して、児童生徒の食に関する意識を高め自己管理能力を育成することが求められる。



○問5 朝ごはんを「毎日食べる」と回答した割合は前年度より減少、「食べない日が多い」「食べない」は増加(図3～図5)

- 「毎日食べる」 83.9% (R2) : 84.7% (小)、80.2% (中)、90.5% (特)
- ・「毎日食べる」と回答した児童生徒の割合は前年度に比べ、小学校で0.9ポイント減少、中学校で0.8ポイント減少した。また「休日以外は食べる」と回答した児童生徒の割合は前年度に比べ、小学校で0.8ポイント増加、中学校で0.5ポイント減少した。
 - ・「食べない日が多い」「食べない」と回答した児童生徒の割合は前年度に比べ、それぞれ全体で0.3ポイント、0.1ポイントとわずかに増加。中学校では、それぞれ0.8ポイント、0.5ポイントの増加がみられた。
 - ・年次推移では、「毎日食べる」割合は減少傾向(図4)。「食べない」割合は1%未満で横ばい(図5)。

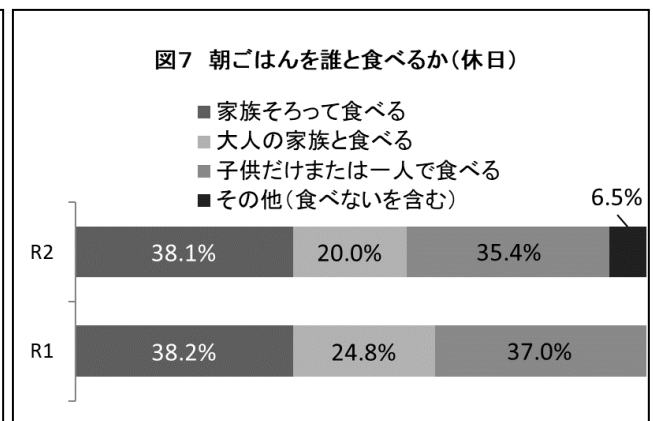
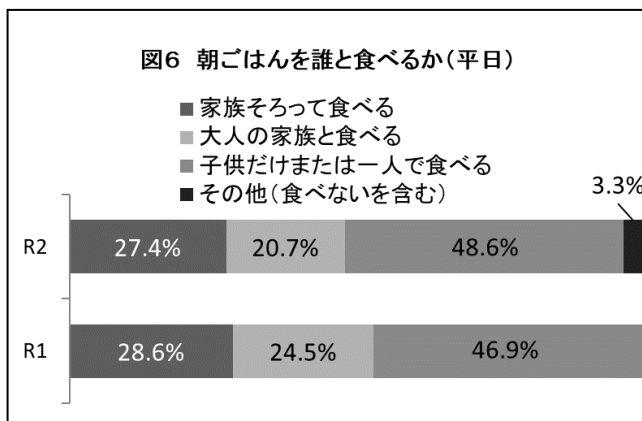


○問6 朝ごはんを「家族そろって食べる」「大人の家族と食べる」児童生徒の割合は、平日で5割弱、休日で6割弱(図6、図7)

平日 52.1% (H30) → 53.1% (R1) → 48.1% (R2)

休日 63.1% (H30) → 63.0% (R1) → 58.1% (R2)

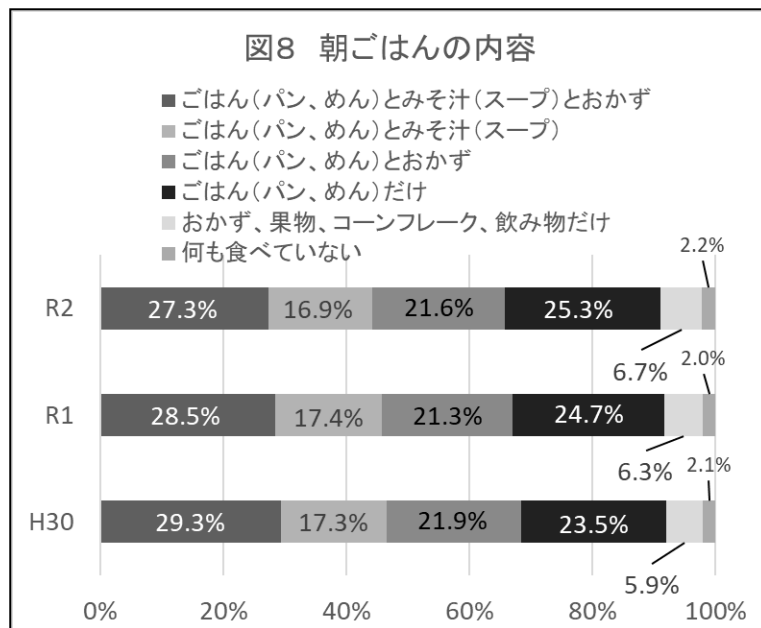
- ・昨年度の調査では「その他」の選択肢がなかったため、前年度との比較が難しいが、全体的に「家族そろって食べる」「大人の家族と食べる」ともに前年度と比べて減少し、後者の方が大きく減少した。
- ・「子供だけまたは一人で食べる」割合が、平日で増加、休日で減少した。



○問7 朝ごはんの内容は「主食+汁物+おかず」は減少傾向、「主食だけ」「単品のみ」は増加傾向(図8)

「主食+汁物+おかず」	27.3% (R2) : 27.2% (小)、27.7% (中)、30.8% (特)
「主食のみ」	25.3% (R2) : 26.2% (小)、21.9% (中)、18.7% (特)
「単品のみ」	6.7% (R2) : 6.5% (小)、7.7% (中)、5.1% (特)

- ・「主食+汁物+おかず」と回答した児童生徒の割合は前年度に比べ、小学校で0.9ポイント減少、中学校で1.9ポイント減少した。特別支援学校でも減少した。
- ・その他、小学校で「主食+おかず」が0.2ポイント増加、中学校では「主食+汁物」「主食+おかず」がそれぞれ0.8ポイント増加、特別支援学校では「主食+汁物」が4.4ポイント増加した。
- ・「主食のみ」「単品のみ」「何も食べない」と回答した児童生徒の割合は前年度同様、小中学校であわせて3割を超えている。特別支援学校では3割弱であった。



(考察) 問5～問7の朝食摂取状況や朝食内容、共食状況については前年度と比較して、「毎日食べる」「主食と汁物、おかず」「家族そろって又は大人の家族と食べる」の割合がそれぞれ減少している。子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を確立するため、児童生徒に「朝食摂取」と「栄養バランスのとれた食事」の重要性を指導していくとともに、家庭・地域へのさらなる啓発が必要である。また、家族が同じ食卓を囲みながらコミュニケーションを図る「共食」は、子どもの食習慣を形成する上で重要な役割を果たす。引き続き、「共食」の習慣づくりについても家庭へ推進していくことが重要である。

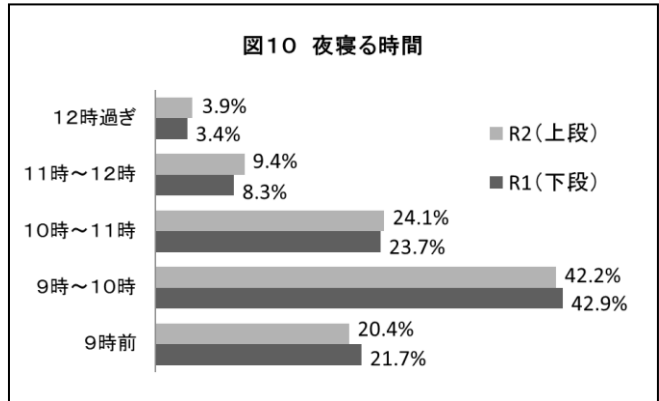
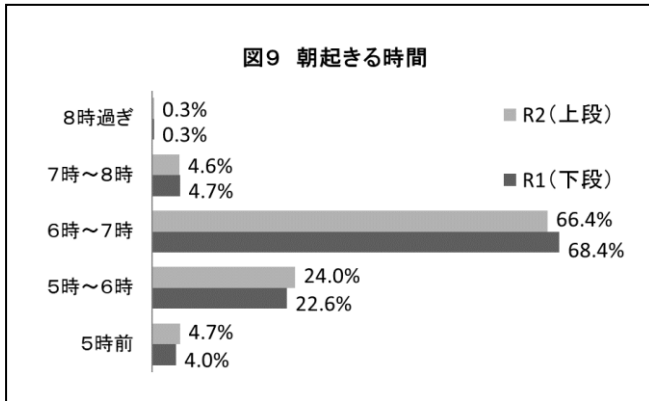
○問8 小中学校の9割以上が「5時前～7時前」に起床。中学校で「7時～8時過ぎ」に起床する割合が増加

小学校「5時前～7時前」	95.8% (H30) → 95.8% (R1) → 96.2% (R2)	(図9)
「7時～8時過ぎ」	4.2% (H30) → 4.2% (R1) → 3.8% (R2)	
中学校「5時前～7時前」	90.5% (H30) → 92.6% (R1) → 91.8% (R2)	
「7時～8時過ぎ」	9.5% (H30) → 7.5% (R1) → 8.2% (R2)	

小学校の9割以上が「9時前～11時前」に就寝、中学校の8割以上が「9時前～12時前」に就寝

小学校「9時前～11時前」	95.4% (H30) → 95.1% (R1) → 95.1% (R2)
「11時～12時過ぎ」	4.7% (H30) → 4.9% (R1) → 4.9% (R2)
中学校「9時前～12時前」	81.5% (H30) → 86.1% (R1) → 84.2% (R2)
「12時過ぎ」	18.5% (H30) → 13.9% (R1) → 15.8% (R2)

- ・朝起きる時間について前年度と比較すると「5時前」で0.7ポイント増加、「5時～6時前」で1.4ポイント増加した。また「6時～7時前」は2.0ポイント減少した（図9）。
- ・夜寝る時間について前年度と比較すると、「11時～12時前」で1.1ポイント増加、「12時過ぎ」で0.5ポイント増加した（図10）。小学校ではそれぞれの回答は減少しているが、中学校でそれぞれ6.0ポイント、1.9ポイント増加している。



（考察）小学校では前年度と比較し、わずかに起きる時間・寝る時間ともに早くなっているが、中学校では起きる時間・寝る時間ともに遅くなっている。児童生徒が、毎日元気に学校生活を過ごすためにも、今後も引き続き、各教科や学級活動において「早寝早起き朝ごはん」の大切さを指導していくとともに、家庭・地域へのさらなる啓発が必要である。

6 今後の取組

○食育の推進

- ・給食の時間や各教科等において、本県独自の食育教材「ふくいこども食育チャレンジ～第一次改訂版～」(令和3年3月配付予定)を活用し、栄養教諭を中核とした学校における食育を推進
- ・栄養教諭等と児童生徒が協力して考案した学校給食メニューコンテストを実施
- ・伝統的な食文化への理解を深めるため、だし等を使った和食給食による食育を推進
- ・「早寝早起き朝ごはん」の指導等とあわせて「共食」の習慣づくりを推進

○地場産給食の推進

- ・地元の食文化への理解を深めるため、地場産食材を使用した給食を提供
- ・地場産食材に関する体験活動や授業を行い、学校給食で味わうことにより、地場産食材や農林漁業に対する理解を促進